

おほどものすくねやかもち
大伴宿禰家持、
あへのいらつめ
安倍女郎に贈る歌一首

一六三一番

いまつく
今造る くに
久邇の都に 秋の夜の
なが
長きにひとり
ぬ
寝るが苦しき

おほどものすくねやかもち
大伴宿禰家持、
くにのみやこ
久邇京より、
なら
奈良の宅に留ま

さかのうへのおほをとめ
れる坂上大嬢に贈る歌一首

一六三二番

あしひきの
山辺に居りて 秋風の
ひ
日に異に吹
おも
妹をしそ思ふ